

おおたけ ひでひろ
写真家 大竹英洋氏

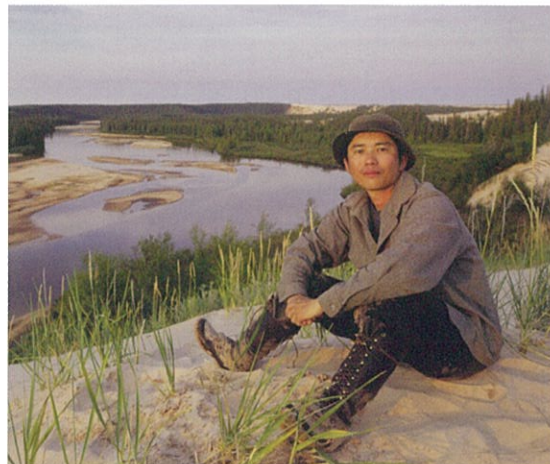
1975年生まれ。一橋大学社会学部卒業。

1999年より北米の湖水地方ノースウッズをフィールドに人間と自然とのつながりを問う作品を発表。

主な写真絵本に『ノースウッズの森で』、『春をさがして カヌーの旅』、『もりはみている』などがある（すべて福音館書店）。

2018年、写真家を目指した経緯とノースウッズへの初めての旅を綴った『そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森 ノースウッズ』（あすなろ書房）で第七回梅棹忠夫・山と探検文学賞受賞。

2021年、撮影20年の集大成となる写真集『ノースウッズ 生命を与える大地』（クレヴィス）で第40回土門拳賞受賞。



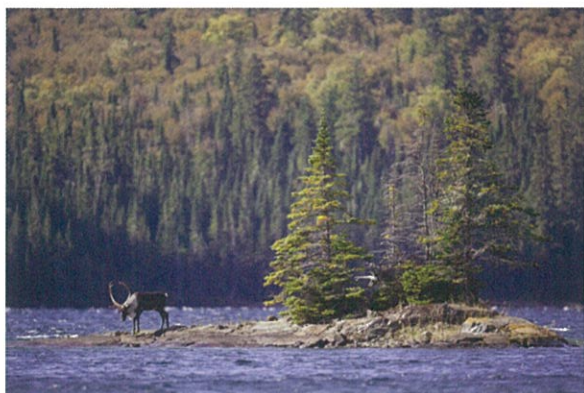
自然の奥を旅して、その先に見えてくることを伝えたい。

そして、人間と自然とのつながりについて、共に考えてゆきたい。

大学時代に始めた山登りを通して、そんな願いを持つようになり、伝える手段としてカメラを手に取りました。卒業後すぐの1999年、日本では絶滅した野生のオオカミをこの目で見るために、アメリカのミネソタ州北部の森を訪れたのが、ノースウッズとの最初の出会いです。以来、毎年のように森へ分け入り、この地で生まれたカナディアン・カヌーを駆使して湖面に漕ぎ出すうち、フィールドはカナダの原野へも広がってゆきました。

通うたびに新たな発見があり、多様な野生動物たちが、それぞれに環境に適応して生きている姿を目の当たりにしてきました。そして、雷による森林火災でさえもただの破壊ではなく、豊かな生態系を保つ大切な役割を担っていることを知りました。この地で何千年にもわたって狩猟採集の暮らしを営んできた先住民アニシナベが、なぜ、自分たちをとりまく自然を「生命を与える大地」と呼ぶのか。その理由が、20年を経た今、ようやく少し理解できる気がするのです。

動物も、草木も、人間も、さらには、岩や水、火や風や雪といった、あらゆる存在がこの地球から命を与えられ、生かされている。この講演が、私たち人間にもう一度そのことを思い出させ、地球のより良き未来について考えるきっかけとなることを願っています。



お申し込み方法

●全日本写真連盟のホームページから申し込み

全日写連

検索

●メールまたはハガキで申し込み ①～⑥を記入し、下記までお送りください QRコードからどうぞ



①氏名 ②住所 ③電話番号 ④会場名（東京・大阪）

⑤講座名（子ども向け講座・大人向け講座）⑥人数（大人 名・小学生 名）

受付後、振込先をお伝えします。入金を確認しだい案内をお送りします

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18-15F 全日写連関西本部「動物写真講座」係
photo-kansai@asahi.email.ne.jp